

平成26年度宮城県社教連会報

平成26年10月3日 社会教育委員研修会



〔会場風景〕 ワークショップ



〔会 長 挨拶〕

本会設立半世紀を経過した今、本会報を継続して発行し続けられることは、関係皆さまに対し理事並びに事務局一同衷心より感謝に堪えないところでございます。

ご承知のように、我が国は世界一の長寿国と賞賛されると同時に高齢化社会という荒波に突入しています。そして、その栄光といわれる数字の陰に様々な問題を抱えている事はいうまでもありません。そのひとつに、昨今の日本の社会教育環境情勢は少子化に伴う小中学校の統廃合。公民館の管理委託や撤去推進等の加速化。視点を変えれば過疎地における高齢者の唯一の社交場でもある医療診療所の廃止等様々な環境課題も山積されています。



「五十周年を迎えて」

宮城県社会教育委員連絡協議会

会長 菅原敏元 (栗原市)

又、長寿に於いて健康は常に一体のものであり、健康な長寿こそが理想であります。人生の最大の幸福は健康にあると言っても過言ではないと思えます。つまり、健康の定義は「心の健康と、体の健康、そして、地域社会に於ける人と人との係わりから生まれる健康」これら三つが揃って初めて本当の健康と言えるものがあると考えるからであります。

私は、これらの諸問題を黙って放置して置いて良いものとは考えません。

私たち社会教育委員は行政側から諮問が無いから何もしないという事ではなく、先の健康の定義に記したように、生涯学習の一環である生き甲斐の定義を考えて論ずるならば、「生き甲斐とは生きることを支えるもの」と捉えて良いのではないかと思うと同時に、生き甲斐はどこにあるかと尋ねられたら、それは「所有」と「活動」と「存在」の中にあると言えると思えます。みんなが常態的に「生き甲斐」について再考するような環境ができたなら、物や金でしか解決できないと思っていたことも、もしかしたら「人の知恵という力」で何かしらの対処や解決策も生み出せることがあるのではないかと考えます。

行政に於いては無い袖を振れないことも十分に承知を致しておりますが、財政最優先による拙速な間違った行動判断を何とか食い止められるように、率先し情報収集強化を図り、現状の問題と真剣に取り組み姿勢で、問題提起のみならずより新たな対策提案等も行って行くような社会教育委員連絡協議会の輪を一緒に広げていこうではありませんか。



平成二十六年 宮城県社会教育委員研修会

《設立五十周年記念大会》

平成二十六年十月三日（金）、

を追究する機会としました。

平成二十六年宮城県社会教育委員研修会を、県内外から社会教育委員を中心に社会教育関係者百六十八名を迎えて開催しました。

なお、本研修会は今年度も文部科学省委託「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業―社会教育委員がコーディネートする被災地の学習・交流事業―」として開催しました。

今年度は本協議会が設立五十年を迎えたことを機として、

開会行事では、宮城県教育庁 鈴木洋教育次長、宮城県社会教育委員連絡協議会 菅原敏元会長が挨拶し、その後、

生涯学習社会を持続する社会教育を推進する社会教育委員の活動を具体化し、実践力や行動力を身につけていくことをねらいに、本研修会を開催しました。また、今年度は「宮城県社会教育関係職員・公民館職員研修会」と併催し、

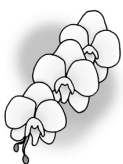
宮城県社会教育委員連絡協議会表彰が行われました。平成二十六年度受賞された方々は次のとおりです。

社会教育委員と社会教育関係の職員等が体験と情報を交換して、社会教育委員と行政が連携・連動する今後の方途等

白石市 佐久間京子様
丸森町 伊藤 和男様
七ヶ浜町 佐藤 徳康様
七ヶ浜町 片桐まき子様

七ヶ浜町 瀬戸 源市様
富谷町 秋葉 征夫様
加美町 菅原 博志様
加美町 三嶋 幸夫様
栗原市 松田 正子様
栗原市 曾根 堅哉様
東松島市 高崎 恵子様
女川町 阿部 正浩様

この表彰は、各地区で多年（六年以上）にわたって社会教育委員として活躍された方、宮城県社会教育委員連絡協議会の役員を四年以上務めた方、また、特に宮城県社会教育委員連絡協議会の発展に寄与された方で、各地区社会教育委員連絡協議会または市町村教育委員会から推薦を受けられた方に表すものです。本県の社会教育の推進に大いに貢献された御功績に対し、深く感謝申し上げます。



講

演

一般社団法人全国社会教育委員連合常務理事の坂本登氏をお招きして、御講演いただきました。

演題

「地域の資源を活かす土曜日の教育支援体制の構築に向けて」
―社会教育の重要性和社会教育委員への期待―

講師

一般社団法人
全国社会教育委員連合
常務理事
坂本 登氏



講演 坂本 登氏

学校週五日制の導入から土曜学習・土曜授業導入までの社会の流れ、土曜日の教育活動に社会教育が参入する意義と期待される役割について御講演いただきました。導入部分では、青少年に対

する「地域の教育力」を取り上げて御教示いただきました。坂本先生は身の回りにおける要素を「自然環境」「文化的環境」「人間的環境」の3つに分け、また、これらを「直接的・意図的教育力」「間接的・無意図的教育力」の2つに分類して分類し、行政やPTA、仲間関係や地域の大人の道徳性等がどのように位置付けられ、青少年にとってどのような役割を果たしているのか御指導いただきました。社会的課題として、血縁の弱体化、地縁の形骸化が進行している現状を挙げられ、詳

しいデータを用いて御説明いただきました。また、この状況について『絆』のパラドックス」を挙げられ、絆という言葉の意味に「連帯」と「束縛」があることとの結びつきなど、興味深いお話をいただきました。

教と学の子義を踏まえた社会教育における主体性（主体者）に関することや、社会教育とボランティアの関連、その関係の中での主体性など示唆に富んだお話もいただきました。

土曜学習を地域で推進するために社会教育委員の役割が大きいというのを示され、社会教育委員のあり方として、「多様な協働的關係でのコーディネート」「学習課題の発見」が今求められていると御指摘いただきました。また、社会教育委員活動が活発な自治体の事例を挙げられ、研修機会が多いことによって自覚を高め、創意・工夫する志向

を高めていることや、社会教育計画の立案・評価とともに社会教育事業を担っている「行動する社会教育委員」についても御講義いただきました。

坂本先生の生涯教育・社会教育における豊富な実績に裏付けられた内容の御講義をいただき、講演をとおして、朗らかな人柄で時折ユーモアも交えながら、「赤ずきん」「浦島太郎」「鶴の恩返し」等を例えに、たいへん分かりやすく御指導いただきました。

事後の参加者アンケートには、社会教育委員としての役割についてより深く聞きたいというたくさんのお意見がありました。



演習
(グループワーク)

テーマ

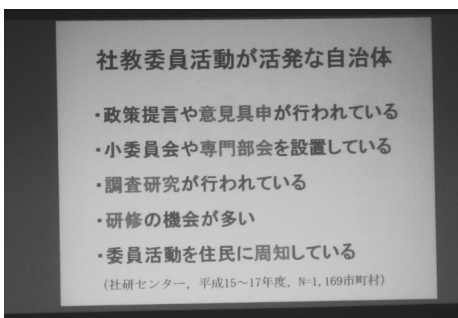
「地域の社会資源を活用した生涯学習・社会教育プログラム」

講師

一般社団法人
全国社会教育委員連合
常務理事

坂本 登氏

引き続き、前半の講演を踏まえて坂本先生に「ワークショップの意義と展開」資料を基に



坂本登氏の資料

して御指導いただきました。土曜日に地域の豊かな社会資源を活用した教育活動を提供する「土曜日の学びの場」事業プログラムの企画演習をとおして、社会教育委員としての実践力を高めるとともに、各グループのコーディネートを通じて、社会教育関係職員が行うことにより、社会教育行政を進める上でのスキルの向上を図ることをねらいとしました。

坂本先生には、演習を3つのステージに区切って御指導いただきました。第2ステージの「実施されている（これまでに実施された）事業の現状と問題点」では、各グループで各市町村の事業紹介や社会教育の状況について情報や意見の交換がとて活発に行われました。社会教育委員同士だけでなく、社会教育委員と行政職員が意見を交わす機会



ワークショップ

全国社会教育連合

表彰おめでとうございます

雑感…

「楽しきかな社教」

多賀城市社会教育委員

原 義夫



過分の「ご褒美」を戴いた。改めて長年にわたりご支援・ご指導を取り分け市教委の社教担当職員の方々に深く感謝とお礼を申し上げます。

平成三年、新興住宅街に町内会が誕生（発足時二五〇世帯、現在六〇〇世帯）し、社会教育振興員に推薦されて「社会教育」に出会う。「自分が楽しいこと。参加者に楽しかったと言ってもらえること」をやるうと考へ、「つどい・ふれあい・学びあい」をモットーに地域の教室づくりを挑戦。平成七年、町内会長・行政区長就任と町内集会所建設を機会に「町内に友だちづく

り」とと、入園前の「赤ちゃん広場」と高齢者を対象とした「シルバーサロン」を毎月開催した。結婚して初めて多賀城に住んだ若いお母さんと赤ちゃんたちと、若い人たちが出かけた後は「つくねん」としての高齢者が友達になるのに時間はかからなかった。この他にもいくつかの教室を開き、地域の友だちづくりの一助とした。

3・11で町内の大半が大規模半壊の被害を受け、私も失う物はないも無い身となった。初秋の頃、教室再開の声に押し、「健康寿命を伸ばそう：心と体の健康教室」の名で軽体操、四則計算、輪読、ことば遊びなどを毎月二回行い、地域における友だちづくりの一助としている。

平成十一年、社会教育委員に就任。会議は「通過駅」でも「座禅会」でもないの、必ず発言すること、そのためには議題について事前に「見・

聴き・考へ」ること、議長になってからは「出席者が気軽に話せることに努めること」という至極当たり前のことを心してきたつもりだが…。特に最近傍聴者も見られ、委員が固くなることは避けたいと考えている。

ともあれ、振り返ると地域での二十年余、自宅と駅までの道しか知らない私に、第二の人生の「定点観測」の場と気が置けない沢山の知人・友人との出会い、生涯学習時代の到来・社会教育施設と指定管理者問題・被災地としての市の復興のシンボルであり知の発信拠点とも言わべき市図書館の建設といった、市史に刻まれる問題に取り組むことが出来たことに、しみじみ「社教に出会ってよかった!」と思うとともに、これらを糧に、近くやって来るだろう第三の人生を「自立・自律した市民」として暮らしたいと考えている。

「全国社会教育委員 連合表彰を受けて」

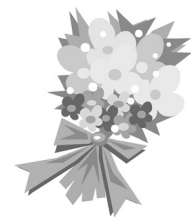
栗原市社会教育委員

菅 原 敏 元



この度は私ごとき者が表彰を賜り、身に余る光栄と存じます。これもひとえに皆さまのおかげと心から感謝と御礼を申し上げます。

こうして表彰を受けてみますと、平成十年に我が故郷栗原に戻りPTA会長を拝命したことが切っ掛けで社会教育委員を仰せつかり本日まで携わることとなりましたが、果たして自分はこれにふさわしいことをこれまでやって来たのかと顧みましても、これといった業績を上げたわけではなく、ただ大過なく十七年間を過ごさせて頂いただけであり、誠に恥ずかしい気持ちばかりこみ上げてきます。同時に、私たちの活動に欠かせない縁の下力持ち役である「事務局の皆さま方」の一方ならぬご尽力があったからこそ、改めて感謝の念を抱いたこと



又、徳島大会での受賞後に帰路回想しましたのは、本委員を仰せつかり日々の活動を通じ様々な経験をさせて頂く中で、最初の頃は「なんで忙しい中を、人からあだこ

うだ言われながらやってあげなければならぬんだ」などと考へた時もありました。しかし、今になれば「それは私自身の人間形成にも大きく役立っているもの」と改めて感謝をするようになりました。このような「人間修養の道場で活動させていただけるチャンスを与えて頂きましたことに私は何と幸運であったのか」と、今はこのありがたさに手を合わせたい気持ちでいっぱいあります。

結びに、今後も「出来ることを、出来るときに、出来るところから」を合言葉に、社会教育委員の名を汚すことのないよう一層身を正し、「自ら動く社会教育委員」を目指して精進いたす所存でございます。皆さまに、尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。受賞の感想寄稿に代えさせていただきます。

合掌

東北社会教育委員 連絡協議会

表彰おめでとうございませう

ゆっくりゆっくり 育てよう

育てよう

色麻町社会教育委員

佐々木 金也



この度、平成二十六年
度東北地区社会教育委員連絡協議会表彰の

栄を賜り、身に余る光栄です。心から厚くお礼を申し上げます。これまでの多くの方々のご指導とご支援に対しまして、深く感謝を申し上げます。秋田での表彰式典では、地域文化の伝承を拝見し、私たちの大切な営みが受け継がれていく事を重く感じました。

顧みますと、私は地区のコミュニティ活動を三十数年、町社会教育委員を務めて十数年余りの時が過ぎましたが、社会教育の原点と大切さを改めて感じています。私は現在、地区コミュニティ

推進協議会の会長として、「地域全体で子どもたちの個性と成長を信じ、ゆっくりゆっくり育てよう」と様々な活動に取り組んでいます。例えば、町の特産物である「米づくり」や「えごま」等の栽培支援、昔から地域に伝わる伝統行事や郷土料理、民話などの伝承活動の支援、自然体験活動などです。活動には多くの地域住民がかかわり、多様な取組みが出来るよう工夫しています。米づくりでは、田植えや稲刈りを体験し、わらでしめ縄を作ったり、餅つき交流を実施しています。

様々な活動を通して、地域の人達や子どもたちが地域の良さを発見し、自分が住む地域を見直すきっかけになれば嬉しく思います。子どもたちが地域を学ぶことは、郷土を慈しむ心を培うことにつながると考えています。また、地域の人達も子どもたちに教えたり交流することにより生き

がいづくりにつながります。これからも、子どもたちと地域を繋ぎ、みんなが明るく元気になれる活動を続けていきたいと考えています。終わりに、社会教育活動を通して町民のみなさんの心に“笑顔と幸せな風”が吹くように、今後とも微力ながら社会教育の発展・振興に努めていきたいと考えています。

「社会教育活動を 振り返って」

栗原市社会教育委員

大内 恵子



今回、東北地区社会教育委員連絡協議会に於いて表彰を受けました。大変有り難いことと感謝し嬉しく思っております。また、関係機関の方々やこれまで活動をさせて頂いた地域の皆様と仲間たちに深く感謝を致したいと思います。

頂いた賞状を手に取り、このような賞状を頂けるまで、自分では社会教育に携わって来たのかと実感し、社会教育を始めてからのこれまでを振り返ってみました。

社会教育、生涯 学習推進の探索

石巻市社会教育委員

永沼 紀男



石巻地域の社会教育、生涯学習は年間計画に添った活動を推進しているが具体性や成果が少なくマンネリ化が指摘されています。社会教育委員の存在さえ知らない市民も多くいた。かつてない大震災により市民は大いにとまどい、社会的なモラルを問われることになった。

その様な状況の中、石巻地域の社会教育、生涯学習の一層の努力と推進が各方面で求められた。関係機関(者)も施設やリーダーが大きな被害を受けた状況だが、石巻地域の為にとの思いで懸命に努力している処だ。すぐに成果が見えて来る事はないが、良い方向に進んでいると思っている。当然だが、まずは市民の代表としての責任と意識を持つ為に、関係する委員会、研修会等に全員出席を前提に事務局と日程等を工夫したところ、

返って来ました。社会教育に関わるようになっただきかけは我が子が生まれたことです。我が子はこれから先、多くの人たちとの関わりの中で育ち、我が子を含めその周りにいる子供たちは、一人では生きてはいけません。健やかな成長と将来へ向けて、自分の足で立って歩いて行くという子供たちの自立を願う思いからでした。そのためには、子供たち自身と周りの環境を良いものにしなければいけないとの考えが、当時、自然と浮かんだものでした。それには、まず周りにいる大人たちと手を組む必要があります。社会教育は、幅広い年代層の方々と繋がりが、助けを求め手を借りることです。それぞれが持つ「出せる力」を認め合い繋がって、コツコツ積み重ねて築いて行くものだと思います。そして、その活動を大人たちが身をもって次世代の子ども達へ教え繋いで行くことではないかと思えます。私自身、これから先も「出せる力」のコツコツ活動を続けて行くかと思っています。

出席率が上がった。

また、研修会の講師を教育行政の関係者以外の民間からの講師を何回かお願いした事もある。「協働教育」を意識しての起用だが、効果はすぐには判らない。

そのような中、平成二十六年年度の東北地区社会教育委員連絡協議会から私が表彰を受けた。私の功労は永年勤続であり、石巻地域の社会教育委員が表彰されたと思っている。田県は学力テストで好成績を上げていることから、秋田県の社会教育の現状を見聞きし、その影響力を調べる事も私の大きな役目と考え、2日間まじめに研修してきた。今後、機会ある毎にそれを反映させて行くのが受彰への返礼と思っている。



各地区・市社会教育委員

からの寄稿

「ふれあつ心・豊かな町」

角田市社会教育委員

佐藤 文男



毎日の様に、子どもの虐待や、果てには尊い命まで消してしまいうような親の事件が、新聞やテレビ等で報じられています。

この様な親は、子どもの時に親から同じことをされていたのではないかと思わざるを得ません。世の中ではふれあう心を持たない親と子どもの悲しい連鎖が繰り返されています。

私たち人間は、一人では暮らせません。他人とのかかわりの中でしか生きられません。だから、他人とどの様にかかわり合っていくのか、それを学ぶことが人生の勉強であり、そのスタートをなすものが

「挨拶」であると思います。

明るい挨拶から心温まる会話に、さらには、他人への思いやりへと発展し、子ども同士、地域のふれあいがより一層深まっていくものと思います。

そこに物が満ち足りた豊かさではなく「心の豊かさ」が生まれ、やがては安らぎのある「すばらしい町」ができるのではないかと思います。

私たち一人ひとりが、人間関係を大切にしながら、より良い環境づくりに努めて行くことが、誰もが住みやすい、子どもたちが安心して生活できることにつながるものだと思います。

私たち社会教育委員は、率先してこうした実践に努めて行かなければならないのではないのでしょうか。

回想

大和町社会教育委員

高橋 栄次



社会教育に携わること現職時代を含め今日まで通算すると二十五余年。社会教育に携わったのは、昭和五十二年四月、派遣社会教育主事三期生として、大和町教育委員会に勤務したことから始まる。

当時は、教育行政はもとより、議会等においてもやっと社会教育の重要性について認識されはじめた頃であった。県内各市町村教育委員会に社会教育課が設置され、県内市町村の社会教育の振興を図るため、県教委（文部省）から派遣社会教育主事第一期生が派遣された。一期生の昼夜にわたる活躍で住民の人たちの公民館に対する意識もより一層「自らの学習する場なのだ。」と言う能動的なものに変容した。職員体制も十分とは言えず、また、社会教育予算も低額ではあったが、職員の職務に対する意識変化は見事なもので夜間、土・日なしの勤務

にも苦情も言わず、掃き掃除、机・椅子をならべ笑顔で住民の人たちを迎え入れたものであった。職員の手の指には、鉄筆による豆は勿論の事タコが一杯出来ていた。夜間や土日に自転車やリヤカーにバックライ「十六mm 映写機（ナトコ）」を積み地域に向いた。今で言う「出前講座」であろうか。

今、こうして思い出をめぐらすと当時の事が昨日のように蘇る。『鉄筆・謄写版・十六mm』は社会教育の原点であったと言える。また、当時は社会教育活動を展開する上で、地域婦人会・青年団・PTA は力強い存在であった。いや、最も頼りにした団体であった。だからこそ「社会教育関係団体」と言われる由縁であろう。あれから数十年、激変した今日、社会教育（生涯学習）活動も多種多様で私たちの価値観では対応出来ない事が多すぎる。しかし、こうした複雑多岐な時代に於いて、尚もまた社会教育委員に委嘱され社会教育のあるべき姿を模索し、仲間と共に活動していることに誇りを感じている。

社会教育委員の 役割と意識

美里町社会教育委員

木村 強 一



私の住む遠田郡美里町は、平成十八年一月、旧小牛田町と旧南郷町

が合併して誕生した。町では、「生涯学習振興計画」を策定しており、官民一体となった取り組みを目指している。

合併前からも社会教育は活発で、各種事業も多く開催されていた。また、社会教育関係の団体が多く、コミュニティセンターの職員も専門的であり、各団体の特徴をよく把握している。そして、事業の評価も随時行い、事業計画は社会教育委員の関与が必要としないほど緻密に出来上がっている。

大崎地区でも、特に協働教育関係の活動が活発化している。地区ごとに特色の濃い活動が目立ってきている。美里町も、協働教育推進事業が展開されており、まちづくり推進課が主幹となり事業を推進している。

社会教育委員の仕事は「住民と行政とのパイプ的役割」と位置づけられているときに、行政にまかせっきりでいいのか、と忸怩たる想いがするの

は、社会教育委員すべてにわたる事ではないだろうかと思っている。特に最近では、会議回数が増え、研修時間も削減してきたことで、仕事の密度が希薄になってきて、それが委員本来の役割意識を薄める結果となっているのではと感じている。

先日、社会教育委員研修の機会があり参加させてもらった。その中で①どのような協力が必要なのか②行政への発信③コミュニティの再生④コーディネーターの役割等、多くの課題が投げかけられ、委員の役割の重要性を改めて認識し、身の引き締まる思いがした。

今後、社会教育の活性化を担うために委員としての役割意識を高め、少なくとも「住民と行政とのパイプ的役割」を実践活動の第一歩に標した

社会教育委員として このごろ思う「教育」ということ

栗原市社会教育委員

鎌田 清



ちょうど二十年前、小学校の教頭をしていて社会教育委員となり

ました。「開かれた学校」が求められ、PTAが中心となり学校と地域を結び思い出の活動が多くできました。

このごろ頼に思うことがありません。それは、社会全体の思考が部分部分に偏りグローバルな思考が少なくなってきたり、建設的な批判が少なく、建方ない諦めて流れの中にじっと我慢している人が多くなっているかと思うのです。

教育は、「人間として」・

「社会の中で」というグローバルなものだと思っておりますが、学校教育は「学力向上」が最優先課題となりその論議が中心のように思われます。社会教育も経済との関連で負の方向に流れる事業縮小にあると思えます。そうしたことの情

報がある程度操作され、そうしたことの批判は浮き上がってきていないように私は思っています。

あるデータでは宮城県の学力は十三位にランクされていました。日経新聞の二月二日特集一面には、「教育は国を作る」日本の隣人は高学力ぞろい」と見出し、数学的応用力(二位上海・二位シンガポール・三位香港・台湾・韓国・マカオ・七位日本)とあり、日本は読解力が四位、科学的応用力が四位となっていました。先進国の独(十六位)、英(二十六位)米(三十六位)となつていきます。これらのデータの取り上げ方を皆さんはどう考えますか。

「一位でなければ駄目でしょうか」とありましたが、学校教育が学力中心になると、心と体力の問題が増えて人間としての大切な部分が欠落していくことは分かってきていることです。誰かの都合で情報が流され、部分の論議が最優先になっているのではと思うのです。

社会教育も、部分的なデータは生涯学習社会に向いているように見えますが、グローバルに調べればマイナ方向に走っ

ていないでしょうか。建設的な声を出し、グローバルな議論から、もっと人々が動き出さなければならぬと思うのですがどうでしょう。

このごろ思うこと

登米市社会教育委員

池田 和子



放課後子ども教室のコーディネーターをしているおかげで、毎日

子ども達と楽しく過ごしています。

「こんにちは！今日もよろしくお願ひします」と元気いっぱい笑顔で入室してきます。こちらこそそのパワーをもらって毎日活き活きと過ごすことができます。学校での勉強から開放された顔が見られます。これから自由なんだと言わんばかりの姿です。こちらこそ

の辺は理解できます。子ども大好き人間ですが、たまに子ども同士のトラブルが発生し、悩むことがしばしばあります。勉強を教えるより大変かなあと思うこともあります。ですが、毎日いろいろ

ろなことを体験しながらとてもよい日々を送っています。つくづく幸せだなと思います。このごろ常を感じることですが、子ども達は素直に人の話を聞かない、自分の言いたいことばかり言うという事で、ちょっと残念です。子ども教室に限ったことではありませんが、つい自分たちの頃とは随分違うなあと感じます。時代の流れや生活環境の変化等があると思います。それは、家庭のしつけ教育が一番ではないかと思えます。

健全育成委員会等でいつも「地域と家庭と学校が一つになって子ども達を健全に育成しましょう」とうたっています。しかし、そのためにはどうすればよいのかは触れてはいません。私は、PTAの行事である学級懇談が大事だと思えます。まさしく学校と家庭と地域の一体の場だと思えます。ここで同じ子を持つ親同士と先生がコミュニケーションをとることが大事だと思います。私は子どもが在学中、ずっとPTAの役員をしていました。自分のためにも子どものためにもなり、とても感謝しています。ぜひ今の保護者にも役員になって欲しいと

思います。今後保護者とコミュニケーションをとり、微力ながら、未来の大人を育成していこうと思っています。今日も元気な声が待っています。さあ、張り切ってくださいましよ。

ふるさとに小さな良かたを見つけよう

東松島市社会教育委員
高崎 恵子

私は東松島市図書館で読み聞かせボランティアを二十十年ほど続けています。絵本や詩やわらわらうたなど、子どもの年齢に合ったお話を選び、目の前の子どもたちと同じ空間で一緒に楽しみ、そして嬉びを共感してきました。

しかし近年、昔ばなしやわらわらうたなど長い間語り継がれ、歌い継がれて来たものが目に見えて消えつつあります。家庭の中で親から子へ、祖父母から孫への様々な日本独特の文化伝承が途切れつつあります。



私は東松島市図書館で読み聞かせボランティアを二十十年ほど続けています。絵本や詩やわらわらうたなど、子どもの年齢に合ったお話を選び、目の前の子どもたちと同じ空間で一緒に楽しみ、そして嬉びを共感してきました。

私はこの断絶が社会をぎこちなくしている一因だと考えています。これまでの私の細やかな経験から健やかな子ども達の成長にとって本当に大切なことはテレビやゲームなどの機械音で育てるのではなく、身近な大人が子どもの目を見ながら肉声で語り掛けることが大事なことであると感じているからです。時代の流れで皆が忙しく、ストレスの多い日常になり、家庭の生活スタイルはかなり変化しました。その中で子どもたちがより大きな影響を受けているのです。

私は読み聞かせの活動と同時に社会教育委員も十年ほど続けていますが、社会教育委員になってからよく耳にするのは家庭の教育力の低下です。最近では家庭・地域・学校が連帯して地域の方々と関わりながら互いに学び合おうとする協働教育に期待が集まっています。協働教育については、東松島市でも社会教育委員の会議や研修会等で勉強、意見交換、情報交換等を重ねています。また、市内の三つの中学校区を中心に小中学校の先生、PTA、地区市民センター、社会教育委員等による協働教育の会議が開かれています。

このような積み重ねがあり最近特に家庭・地域・学校の間新しい風を感じています。社会教育委員の役割は、人と人を繋ぎ地域と行政の橋渡しをして、協働教育に関わる全ての人が「やって良かった。また次も」という思いが長く続くように、小さな良かたを沢山見つけて励まし応援して行くことだと考えています。

花が咲いた 花が咲いた
はひふへ ホホホ
花が咲いて 見ない人いない
花が咲いた 花が咲いた
はひふへ ハハハ
花が咲いて 怒る人いない
まだ みちお

「出会い」からの学びと課題

気仙沼市社会教育委員
菊池 平夫

平成二十六年四月から気仙沼市社会教育委員に委嘱されまもなく一年になろうとしている。振り返ってみると、社会教育関係者の皆様方との出会いから



平成二十六年四月から気仙沼市社会教育委員に委嘱されまもなく一年になろうとしている。振り返ってみると、社会教育関係者の皆様方との出会いから

新たな学びが始まると同時に悩みの芽や課題が日増しに大きくなっていく。「自分は何ができるのか?」「どのように推進していったらいいのか?」などなど。しかし、その悩みや課題等々は、委員会当局や県の社会教育委員の皆様方との出会いや各種研修会・研究大会等に参加する機会があり一歩ずつではあるが、解消しつつある。

ところで、今年度は、各地区の活動計画と実践事例の紹介、プラットフォーム事業の推進、各地区の活動計画とコーディネーターの役割等々について、情報交換等を行ってきたい。また、社会教育委員としての資質向上のために、多種多様な大会、研修会に参加してきた。しかし、どこの会場でも、少子高齢化、公民館の減少や地域との連携・役割と在り方、家庭・学校・地域の連携、子どもを取り巻く環境等々の課題が話題にあがる。

私は、委員とともに、市や各地区の実態と課題を分析し人々が生きがい・やりがいを感じられる社会と町・地域づくりに参画しながら、課題解決を図っていきたくと考えている。

平成26年度

各地区社会教育委員連絡協議会

— 事業報告 —

大河原地区

本年度の当地区研修会は、社会教育委員の役割について考え、また、事務局担当である丸森町の歴史や文化にふれることにより、今後の社会教育・生涯学習の推進に資するという観点で研修会を計画・実施しました。

■研修会（総会終了後に実施）

①期日…5月29日(木)

②内容…講演

「生涯学習・社会教育の進のための社会教育委員の役割について」

社会教育委員の役割と課題、宮城県社会教育委員の会議の実際、平成二十六年「宮城県の生涯学習」について、社会教育法、社会教育委員実態調査結果や宮城県の主要推進事項などを基に、講話による研修を行いました。

③講師…宮城県教育庁

生涯学習課
社会教育専門監

佐藤 新一氏

④場所…白石市中央公民館

⑤その他…

■管内研修会

①期日…11月19日(水)

②内容…講演

「御城米輸送と

阿武隈川舟運」他



「御城米輸送と阿武隈川舟運」の講演の様子

昔丸森町で栄えた「阿武隈川舟運」の歴史や背景、管内各市町との関わりなどを、自作視聴覚教材を交えて講話をいただき、その後、舟運からのつながりから

「阿武隈ライン舟下り」体験乗船を行ったあと齋理屋敷の見学を行いました。

③講師…元丸森町教育委員会
教育長

齋藤 良治氏ほか

④場所…丸森町役場 他

⑤その他…

仙台地区

○平成二十六年総会
期日…6月25日(水)

場所…大衡村平林会館

内容…感謝状贈呈及び左記について審議いただきました。

・平成二十五年事業報告及び収支決算報告と監査報告

・平成二十六年事業計画及び収支予算

○平成二十六年年度研修会

期日…6月25日(水)

場所…大衡村平林会館

内容…基調講演を実施



講師…東北大学大学院
教育学研究科
准教授

石井山 竜平氏

演題…『今、公民館で学ぶということ』

○第一回理事会

期日…8月6日(水)

場所…宮城県仙台合同庁舎

内容…平成二十六年視察研修会について協議し、十月二十二日に実施予定の視察研修会について、事務局案のとおり、山形県東置賜郡川西町の特定非営利活動法人きらりよしじまネットワークを訪問することになりました。

○理事視察研修会

期日…10月22日(水)

場所…山形県東置賜郡川西町
内容…「子育て支援と青少年健全育成事業について」と題してよじま地区の取組みについて、担当職員から実践事例や、現在の活動内容について説明を受けました。

内容…大崎地区社会教育委員連絡協議会では、生涯学習の推進と社会教育委員としての資質向上を図るため、毎年構成市町の輪番による研修会を企画しています。

○監査会及び第二回理事会

期日…2月20日(金)

場所…宮城県仙台合同庁舎
内容…監査会

・平成二十六年年度会計監査理事会

・平成二十六年年度事業報告と決算報告

・平成二十七年年度事業計画と予算案の審議

・役員改選について

大崎地区

○大崎地区社会教育委員連絡協議会研修会

期日…10月30日(木)

午後1時30分

場所…大崎市役所岩出山庁舎
3階大会議室

内容…大崎地区社会教育委員連絡協議会では、生涯学習の推進と社会教育委員としての資質向上を図るため、毎年構成市町の輪番による研修会を企画しています。

今回の研修は二部構成とし、第一部は「放課後子ども総合プラン」をテーマに、講演会を実施しました。

講師には、東北文化学園大学学長補佐の佐藤直由先生をお招きし「放課後子ども総合プラン」が目指すものとはと題しての講演を頂きました。第二部は災害復旧工事を進めている国指定文化財「旧有備館及び庭園」に移動して、大崎市教育委員会文化財課の高橋係長から災害復旧状況について説明を頂きました。

栗原市

◆第一回社会教育委員会議

(1)日時…9月4日(木)

午後1時30分から

(2)内容…平成二十六年年度栗原市社会教育事業について

- ・社会教育課事業
- ・各教育センター事業
- ・各文化センター及び図書館事業

◆栗原地区協働教育研修会

(第一回研修会)

(1)日時…9月25日(木)

(2)会場…栗原合同庁舎

(3)内容…

【実践発表】

高清水小学校

【講演】

「学校と地域の連携・協働で大切なこと」

講師 学習院大学

教授 長沼 豊氏

◆学校支援ボランティア実践発表会(第二回研修会)

(1)日時…1月30日(金)

(2)会場…栗原市役所 金成分庁舎

ほたるホール

(3)内容…

【実践発表】

鷺沢小学校・若柳小学校

【講演】

「登米市学校・地域教育力向上対策事業」

講師 登米市教育委員会 派遣社会教育主事

及川 浩氏

「子どもたちのために」

講師 登米市教育委員会 派遣社会教育主事

及川 浩氏

◆第二回社会教育委員会及び研修会(予定)

(1)期日…2月6日(金)

(2)内容…

【報告】平成二十六年年度栗原市社会教育事業実施状況について

【研修会】

・平成二十七年年度栗原市社会教育の方針及び具体的施策について(意見交換)

・栗原市公民館のあり方について(意見交換)

◆第三回社会教育委員会及び研修会(予定)

委員については、任期二年目であり、十名の構成となっております。

会議では登米市教育振興基本計画(案)及び生涯学習施設の再編基本計画(案)について現在までの計画を確認しまし

ております。

委員については、任期二年目であり、十名の構成となっております。

会議では登米市教育振興基本計画(案)及び生涯学習施設の再編基本計画(案)について現在までの計画を確認しまし

ております。

委員については、任期二年目であり、十名の構成となっております。

会議では登米市教育振興基本計画(案)及び生涯学習施設の再編基本計画(案)について現在までの計画を確認しまし

登米市

委員については、任期二年目であり、十名の構成となっております。

会議では登米市教育振興基本計画(案)及び生涯学習施設の再編基本計画(案)について現在までの計画を確認しまし

ております。

委員については、任期二年目であり、十名の構成となっております。

会議では登米市教育振興基本計画(案)及び生涯学習施設の再編基本計画(案)について現在までの計画を確認しまし

ております。



学校支援ボランティア実践発表会

・講師
宮城教育大学教職大学院
教授 梨本 雄太郎 氏



今年度、第五十九回宮城県公民館大会兼第二十五回宮城県公民館研究会を気仙沼・本吉地方社会教育関係者合同研修会として気仙沼市はまなすホールにて開催しました。社会教育委員はもとより、公民館職員や社会教育関係団体関係者、一般市民なども含め約三百五十人の参加者のもと、梨本先生の基調講演、三つの事例発表による研究会及び情報交換会を行いました。



平成二十六年 宮城県社会教育委員連絡協議会事業一覧

○第一回理事会

平成 26 年 6 月 12 日

(県行政庁舎)

- * 平成 25 年度事業報告及び収支決算報告について
- ・ 監査報告

- * 平成 26 年度事業計画案及び予算案について

- * 表彰関係について (県・東北・全国)

- * 平成 26 年度研修会について

- * 宮城県社会教育委員連絡協議会発足五十周年記念事業について

○第一回代議員会・研修会

情報交換会

平成 26 年 6 月 12 日

(県行政庁舎)

- * 平成 25 年度事業報告及び収支決算報告について
- ・ 監査報告

- * 平成 26 年度事業計画案

及び予算案について

- * 表彰関係について (県・東北・全国)

- * 平成 26 年度役員・地区事務局について

- * 平成 26 年度研修会について

- * 平成 26 年度東北地区社会教育研究大会兼公民館大会秋田大会について

- * 平成 26 年度各地区事務局等の確認

* 情報交換会

○平成 26 年度宮城県社会教育委員研修会

〔設立五十周年記念大会〕

・ 宮城県社会教育関係職員・公民館職員研修会 兼

文部科学省委託「学びを通じた被災地の地域コミュニ

ティ再生支援事業」

平成 26 年 10 月 3 日

(県行政庁舎)

* 宮城県社会教育委員功労者表彰

表彰

* 講演・坂本 登氏

(一般社団法人全国社会教育委員連合 常務理事)

「地域の資源を活かす土曜

日の教育支援体制の構築に

向けて

社会教育の重要性と社

会教育委員への期待」

* 演習 (グループワーク)

「地域の社会資源を活用し

た生涯学習・社会教育事

業プログラム」

講師：坂本 登氏

(一般社団法人全国社会教

育委員連合 常務理事)

○第二回理事会

平成 27 年 3 月 4 日

(県行政庁舎)

- * 平成 26 年度事業中間報告及び収支中間報告について (平成 27 年 3 月 1 日現在)

- * 平成 27 年度事業計画案及び予算案について

- * 平成 27 年度役員及び地区事務局について

- * 平成 26 年度東北地区社会教育研究大会秋田大会について (報告)

- * 平成 27 年度東北地区社会教育研究大会山形大会について

発行・宮城県社会教育

委員連絡協議会

会長 菅原 敏元

事務局・仙台市青葉区本町

三一八一

宮城県教育庁

生涯学習課内

TEL 022(211)3653

FAX 022(211)3697

印刷 新生印刷株式会社